

株式会社バイ・テクノロジー

2021年3月期(第24期)

第3四半期決算

補 足 説 明 資 料

2021年2月10日

将来見通し等について

▶ 将来見通し

本資料に記載されている当社の計画、戦略、見通し及びその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは現在入手可能な期待、見積、予想に基づいています。これらの期待、見積、予想は、経済情勢・市況の変化、競争環境の変化、顧客のある国の政策変化、係争中及び将来の訴訟の結果など多くの潜在的リスク、不確実な要素、過程の影響を受けますので、実際の業績は見通しから大きく異なる結果となる可能性があります。従って、これら将来予想に関する記述に全面的に依拠することは差し控えて頂きますようお願いいたします。また、当社は新しい情報、将来の出来事などに基づきこれらの将来予測を更新する義務を負うものではありません。

▶ 為替リスク

当社の主力製品である、フラットパネルディスプレイ製造装置の輸出販売は、原則円建てで行われております。一部に外貨建て決済もありますが必要に応じて受注時に為替予約を付し、為替変動リスクをヘッジしております。従って、装置販売に関する為替レート変動による影響は軽微であります。

▶ 数字の処理

記載された金額は、単位未満を切り捨て処理、比率は単位金額で処理した結果を四捨五入している為、内訳と一致しない場合があります。

▶ 暫定的な会計処理の確定

2019年8月22日に行われた株式会社ナノシステムソリューションズとの企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、第2四半期連結会計期間に確定しております。この暫定的な会計処理の確定に伴い、遡及修正後の数値を用いて比較分析を行っております。

ハイライト

業績(P4~12)

- ▶ **売上・利益は、コロナ影響も想定の範囲内で概ね期初計画の通りに推移**
 - ▶ 据付作業等の現地化が順調に進展
 - ▶ 21年3月期業績予想に対する進捗は良好
- ▶ **受注は、FPDおよび半導体関連の商談を順調にこなし、前年比で24.5%増加**
 - ▶ 半導体関連装置及び中小型OLED関連装置の受注が好調
 - ▶ 四半期受注高は、商談増に伴いQ3を底にQ4で回復する見込み

業績予想(P13~15)

- ▶ **2020年5月12日開示の業績予想から変更無**

半導体装置事業(P16)

- ▶ **リソテックジャパン社を子会社化**
 - ▶ M&Aおよび自社技術開発で半導体装置事業を拡充
- ▶ **第2の事業の柱として、半導体装置事業が成長を牽引**
 - ▶ 国内外の装置需要は堅調に推移
 - ▶ 攻めの成長戦略(既存事業の競争力強化 + M&A)を継続



| 決算概要

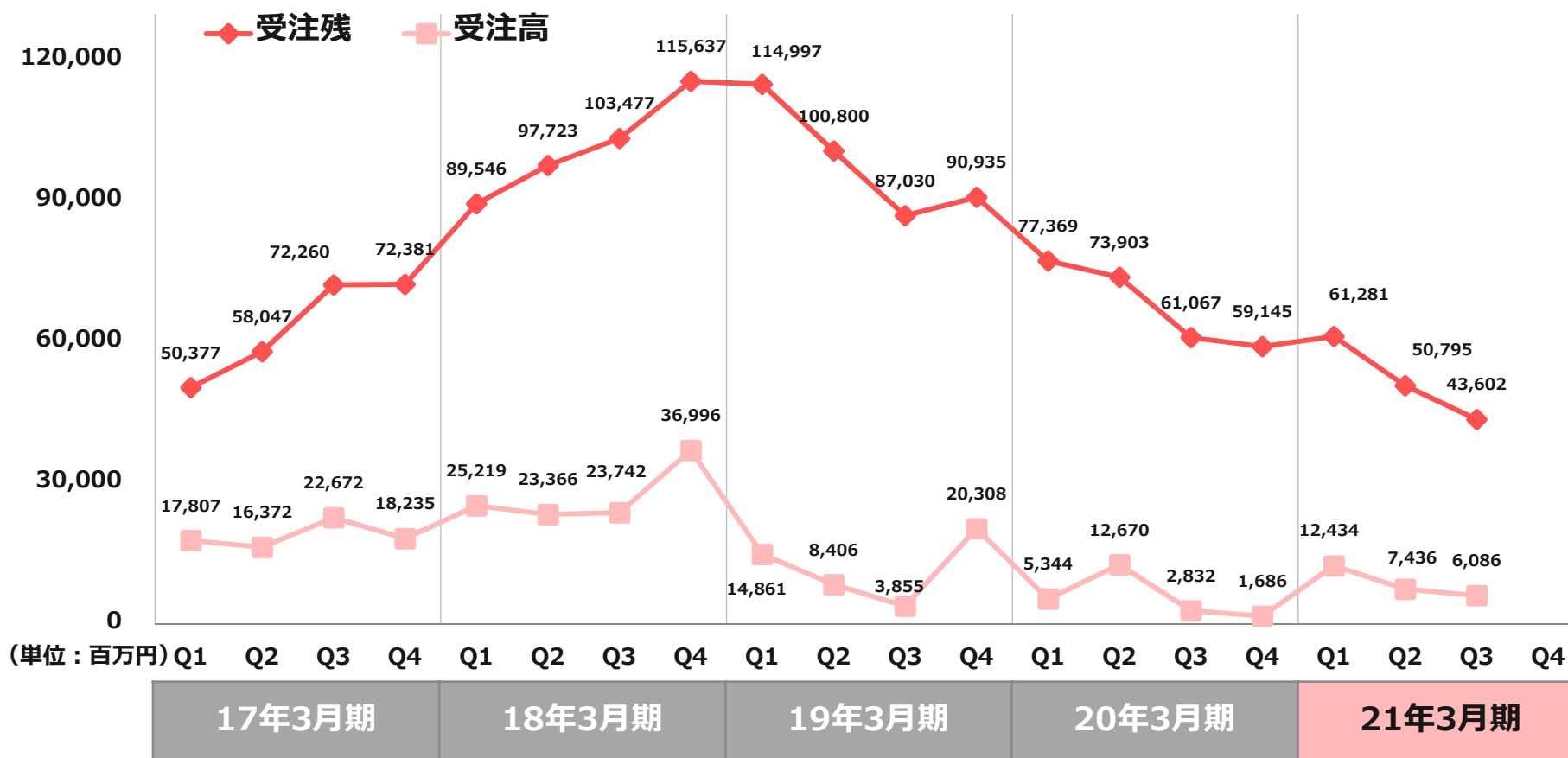
連結業績

- ▶ **売上、利益ともに概ね期初計画通りに推移、今期業績予想に対する進捗も良好**
 - ▶ 技術者出張が実質不可能な時期も、据付作業等の現地化で順調に進行
 - ▶ 業績予想に対する進捗率は、売上:76.8%、営業利益:83.2%と良好

	20年3月期Q3累計		21年3月期Q3累計		増減率
	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	
売上高	50,715	—	41,498	—	△18.2%
売上総利益	16,734	33.0%	11,646	28.1%	△30.4%
営業利益	9,416	18.6%	4,992	12.0%	△47.0%
経常利益	9,416	18.6%	4,832	11.6%	△48.7%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	5,925	11.7%	2,492	6.0%	△57.9%

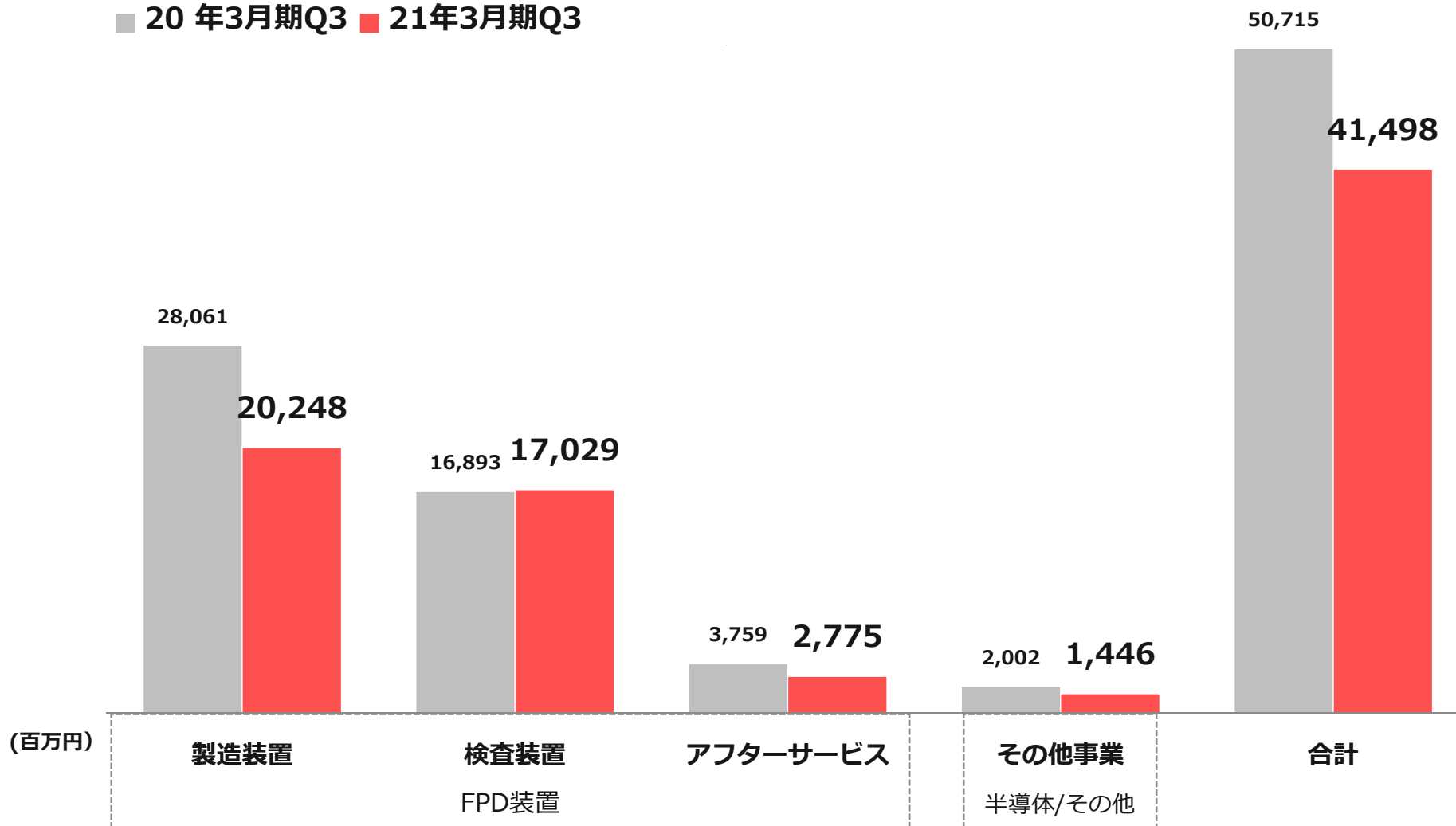
連結受注残・四半期連結受注高の推移

- ▶ 累計受注高は、前年比24.5%増の25,956百万円
- ▶ 四半期受注高は、Q3を底にQ4に回復する見込み
 - ▶ Q3(3カ月)の受注は、中小型OLED/半導体関連の受注が牽引し前年比114.9%増の6,086百万円
 - ▶ 巣ごもり需要等を背景としたFPD及び半導体関連の商談が急増
 - ▶ 新製品開発の進展し、一部商談が前進、期中の受注計上を期待

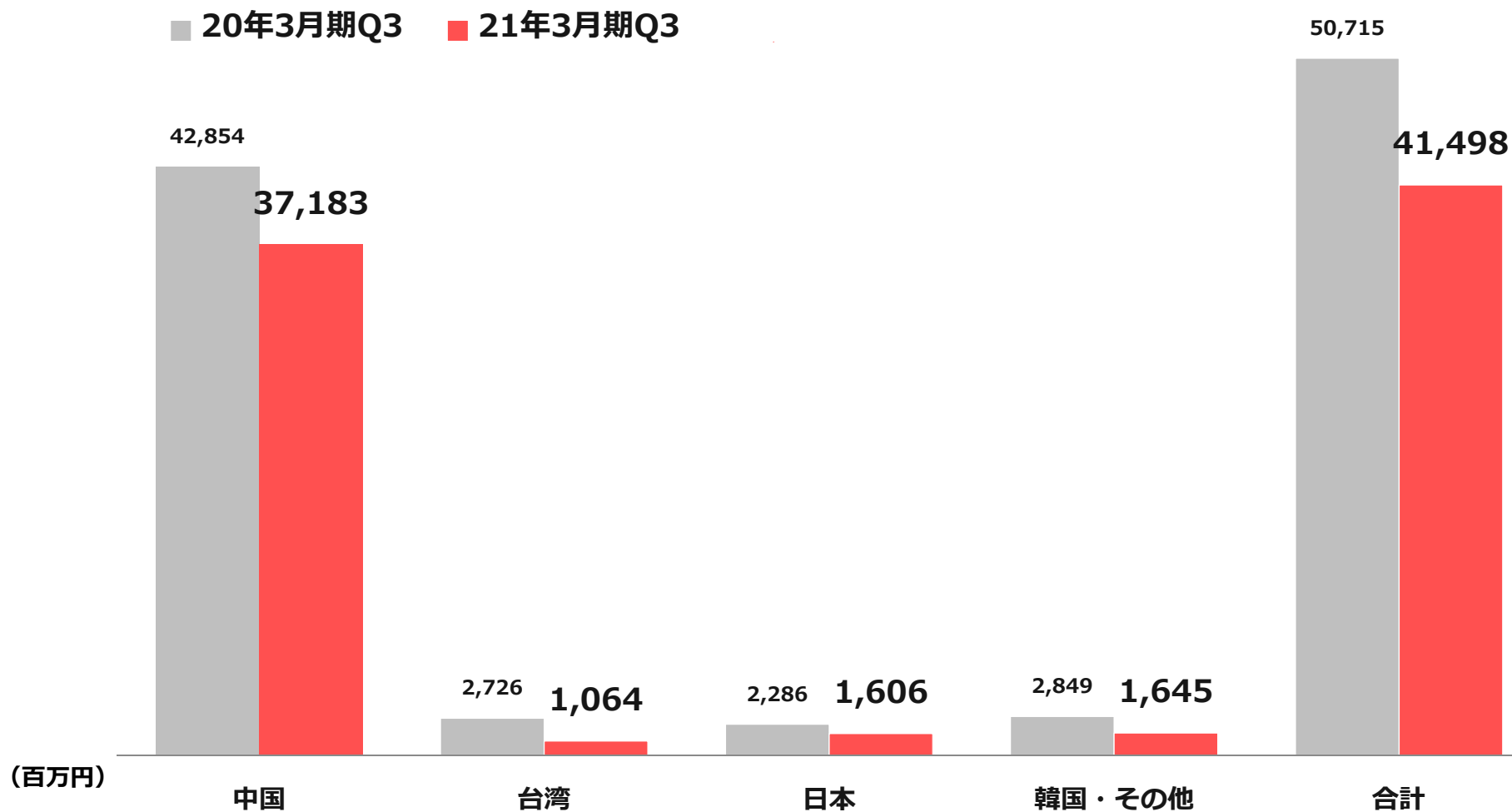


装置別連結売上高

■ 20年3月期Q3 ■ 21年3月期Q3



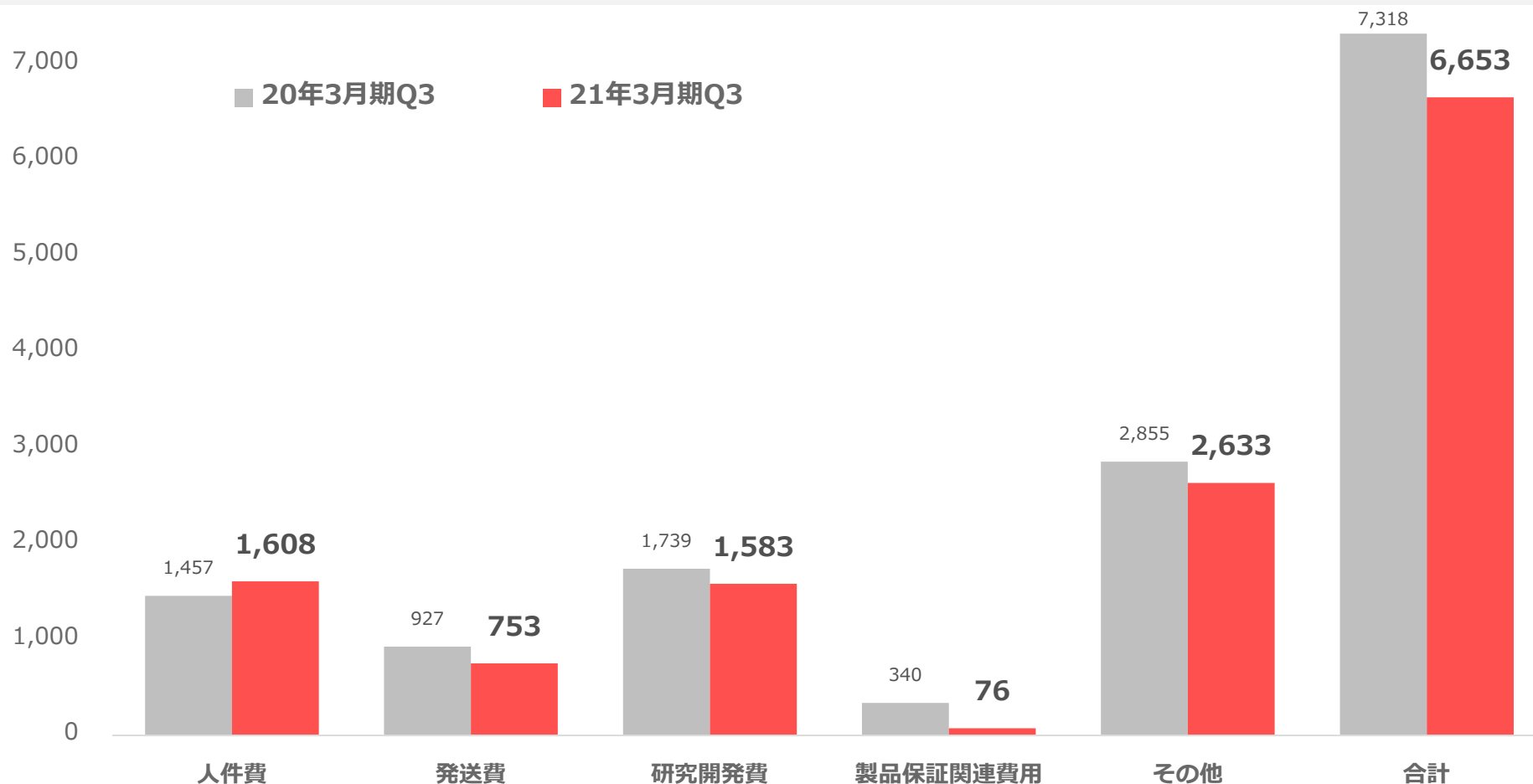
地域別連結売上高



販売費及び一般管理費

▶ 販管費及び一般管理費は、前年比で665百万円減少(△9%)

- ▶ NSS子会社化により人件費が増加も、売上減/コロナ禍での出張抑制等により、発送費、研究開発費、製品保証関連費用等が減少

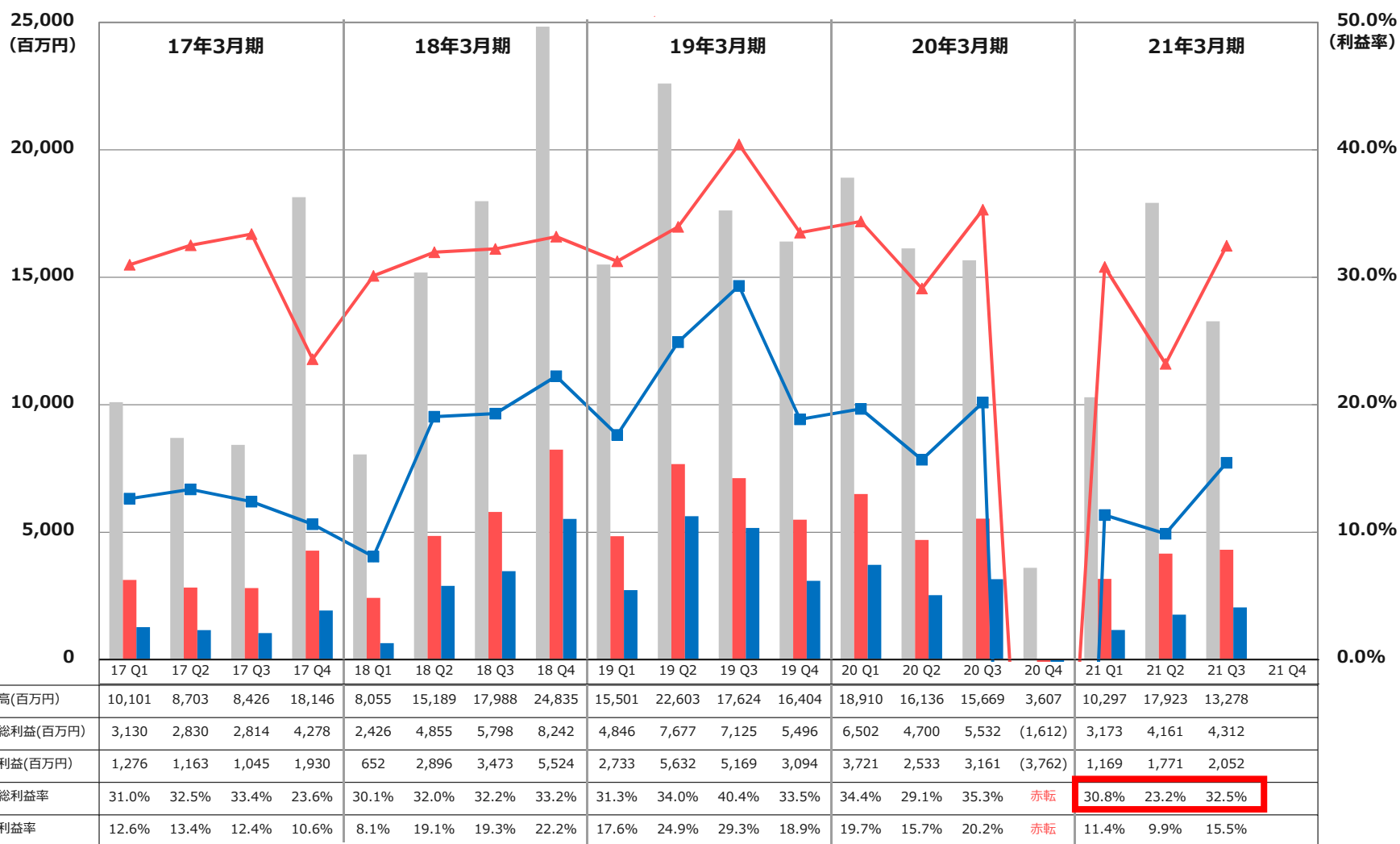


(単位：百万円)

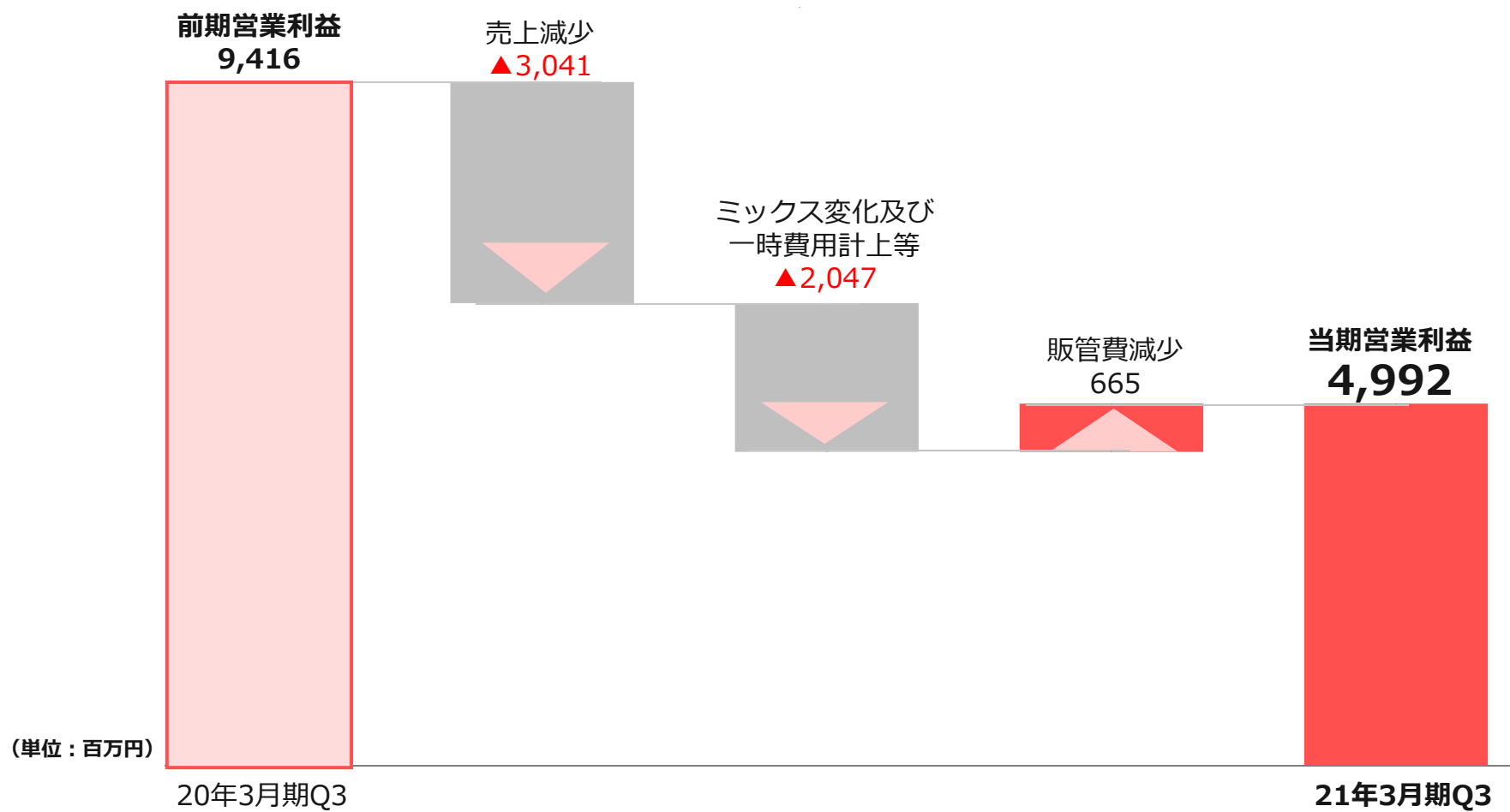
四半期毎連結売上高・利益の推移

▶ 四半期の売上及び利益は、概ね期初計画通りの進捗

- ▶ 売上総利益率が一時費用として在庫評価損等をQ2に計上し落ち込むもQ3に回復



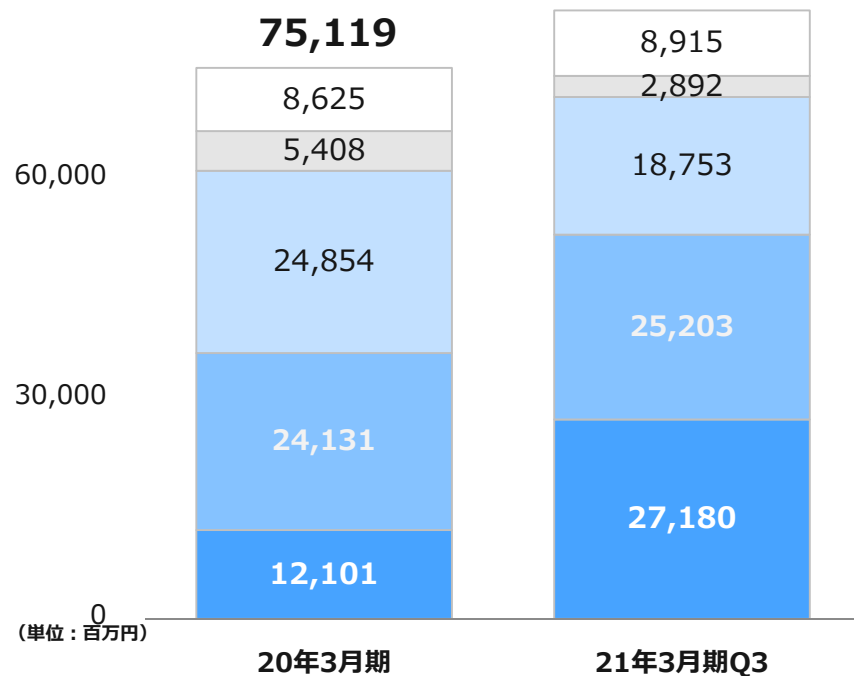
連結営業利益の差異分析



連結貸借対照表の推移

総資産

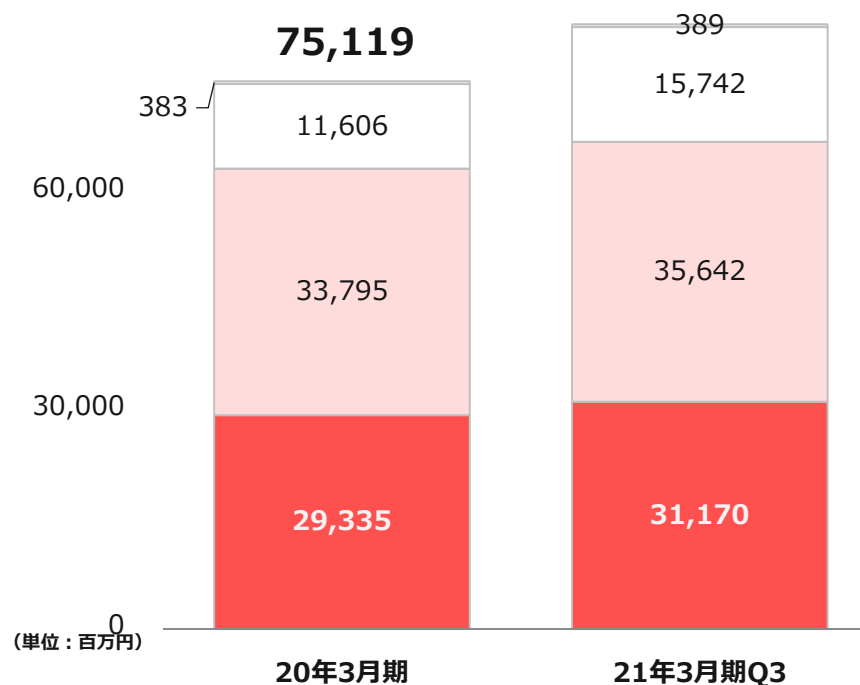
90,000



- 現金及び預金
- 受取手形及び売掛金
- 棚卸資産
- その他流動資産
- 固定資産

負債・純資産

90,000



- 純資産
- 借入金（短期・長期）
- その他流動負債
- その他固定負債

| 業績見通し

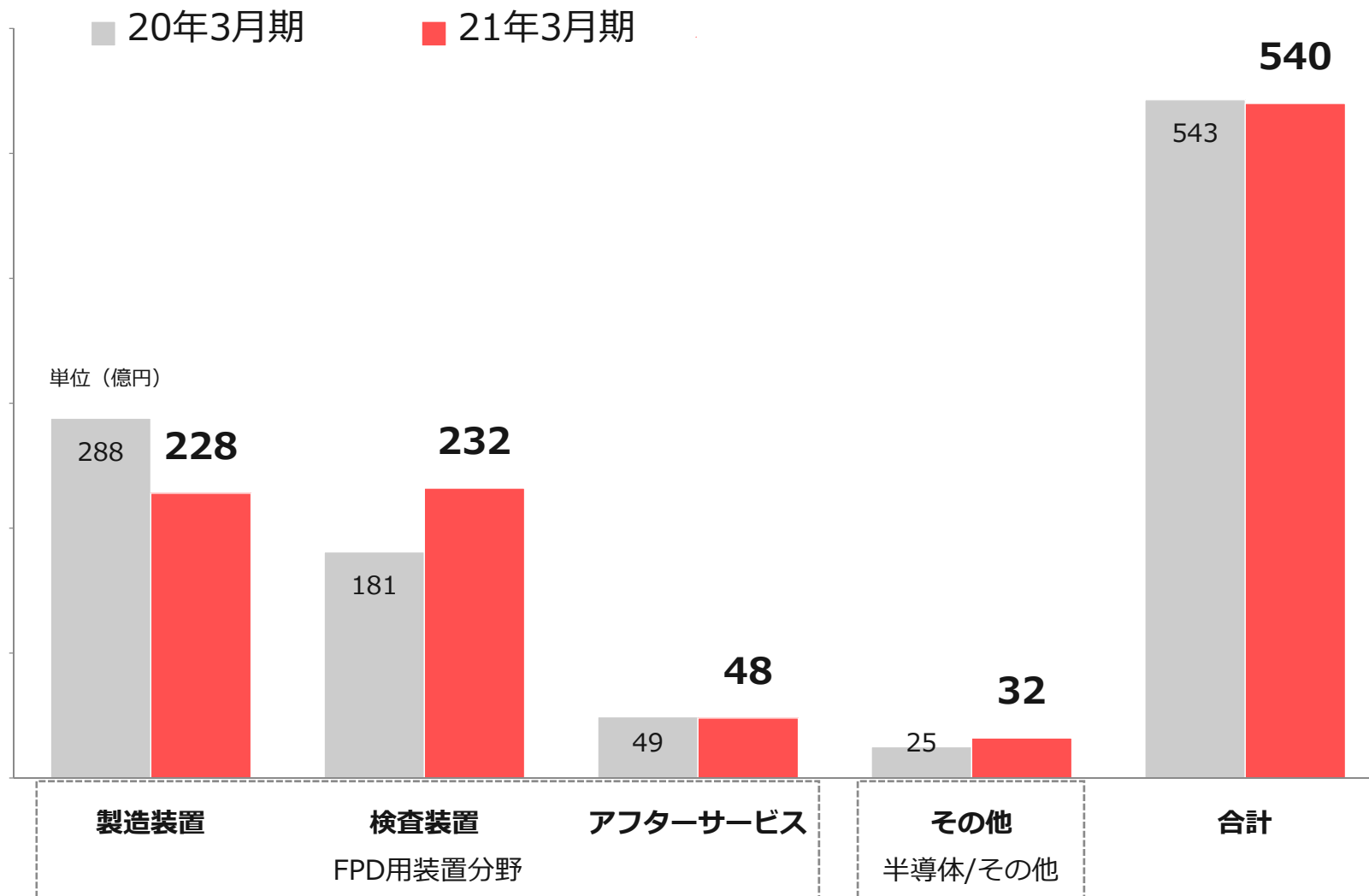
2021年3月期の業績および配当予想

▶ 2020年5月12日開示の業績予想から変更無

業績予想	20年3月期(実績)		21年3月期(予想)		対前期増減率
	金額(百万円)	構成比	金額(百万円)	構成比	
売上高	54,322	—	54,000	—	△0.6%
営業利益	5,663	10.4%	6,000	11.1%	6.1%
経常利益	6,156	11.3%	5,800	10.7%	△5.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,251	6.0%	3,000	5.6%	△7.7%
EPS	336.29円		310.26円		—

配当予想	20年3月期(実績)	21年3月期
中間	80円(実績)	60円(実績)
期末	40円(実績)	60円(予想)

2021年3月期 通期売上予想内訳



トピックス（半導体事業）

▶ リソテックジャパン社を子会社化

- ▶ M&Aおよび自社技術開発で半導体装置事業を拡充/受託サービスの海外展開も視野

▶ 第2の事業の柱として、当社グループの成長を牽引

- ▶ 中国を始め、国内外での装置需要は強く、受注活動は好調
- ▶ 既存事業の競争力強化+M&Aで、21年以降も成長を加速

1. リソテックジャパン

概要：93年創業/半導体リソ技術の専門家集団

強み：R&D用装置、評価/研究の受託サービス

主要顧客：半導体/材料メーカー等

シナジー：

- 当社サプライチェーンの活用
- 露光技術開発におけるシナジー/開発速度改善等

2. 事業環境等

中国市場での装置需要/引合は増加傾向

- グループ一丸で受注活動継続
- Q4期間中の商談進展を期待

ウェーハ関連装置の受注を計上(12月)

- 一部をZ-CSETブランドで販売

3. 半導体事業の沿革

事業	製品(参入分野)	2016	2017	2018	2019	2020	2021
リソテックジャパン	塗布・現像装置等(R&D)						M&A(1月)
NSS	ウェーハ検査				M&A(8月)		
	フォトリソ描画				M&A(8月)		
Vテク	フォトリソ修正/測定			自社開発			
Z-CSET	ICリソ			合併(3月)/業務提携(11月)			
	ウェーハ研磨			合併(3月)/自社開発(4月)			
OHT	PKG、MRAM用O/Sリソ等	M&A(4月)					



V-TECHNOLOGY